

記 入 日 2013 年 1 月 14 日

1. 概 要

実践団体名	わがやネット		
連絡先	052-837-0309		
プランタイトル	すすめ！かぐてんぼう隊		
プランの対象者※1	2. 小学生（低学年） 3. 小学生（高学年） 5. 高校生 11. 社会人・一般	対象とする 災害種別※2	地震

※1 別紙「記入上の留意点」の項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※2 別紙「記入上の留意点」の項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

大地震発生時において被害を少なくするためには、家具等の転倒防止対策を行うことはとても有効な手段です。

本プランでは、その推進を目的に小学生や高校生を対象とした家具等転倒防止対策の講座及び実習を行いました。

また、社会人・一般として、災害ボランティア（既に家具等転倒防止対策の講座及び実習を受講）に出前授業の講師として実践実習を行いました。

【プランの概要】

- ・小学校、高等学校への出前授業の実施
- ・学童保育への講座及び実習
- ・社会人、一般の講師育成のための実践実習
- ・地域への展開事例

【期待される効果・ここがおすすめ！】

子どもたちは、講座及び実習を通して、自分の身は自分で守ること（小学生・高校生）、家族や近所の住民を守ること（高校生）を素直に理解してくれました。子どもたちが家庭に帰って、両親、祖父母などに、家具等の転倒防止対策の必要性を伝えてくれると思います。また、近所の住民にも伝えて、地域への見守りに繋がることを期待しています。

“子どもを主体にする”ことがおすすめです。飛散防止フィルムを貼ったり、壁の下地を探したりなど体験することで、子どもたちは関心を持ち、生き活きとした表情になりました。

授業の中で、地震の際に家具が転倒する映像を見せることは、“我が事意識”を持つことに最も有効でした。また、夏休みに自分の部屋の平面図や家具の配置をあらかじめ描いてきてもらった高校生の宿題も効果的でした。

2. プランの年間活動記録 (2012 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2月	2/9 推進連絡会 ^(注1) で参加報告、協力要請 2/25 福祉住環境コーディネーター・タウンミーティングにて PR		
3月	3/3 愛知県建築士会豊田支部主催「家具の転倒防止対策から地域の見守り支援に向けて」講演、建築士、防災ボランティア、一般向け普及啓発を実施 3/14 技術研究会 ^(注2) で活動方針を報告		
4月	4/10 名大教育学部附属高校 2 年生対象に出前授業の開催が決定 4/12 推進連絡会で進捗状況を報告		
5月	5/9 技術研究会で進捗状況を報告 5/17NPO 法人菜の花の代表へ相談、放課後児童クラブの責任者を紹介 5/24 名古屋市住宅都市局から依頼を受け、かぐてんぼう隊の活動、防災教育 cp 等を説明		
6月	6/1 教育委員会・住宅都市局の担当者と面談し、主旨を説明 6/11 名古屋市立小学校の校長及び 6 年担当教員と面談し、主旨を説明 6/14 推進連絡会で活動内容を連絡・相談 6/19 住宅都市局が「神戸市すまいの安心支援センター」を紹介		
7月	7/6 名古屋市総務局 総合調整室部長、住 宅局、消防局の担当 者と打合せ	7/5 名大教育学部附属中高校の副校長から担当教員を紹介 7/5・9 市立小学校の関係者へ授業計画書(案)の相談 7/11 技術研究会で活動内容について連絡・相談 7/中旬、学童保育の責任者と講座内容等の打合せ ※7月末には、授業計画書(案)の内容を固めた	
8月	講師を依頼	教材等の購入及び準備	8/9 神戸市へ視察 8/27 学童保育にて、出前講座を実施
9月	9/12 技術研究会で、 障害者就労支援施 設製作のベルト活 用の報告・連絡	高校生向けのアンケ ートを作成、集計	9/13 名古屋市立小学校(6年生)に出 前授業を実施 9/21・25・26 名大教育学部附属中・ 高校(高校2年生)に出前授業を実施
10月	10/3 障害者就労支援施設の施設長と面談 10/5 中間発表のため映像記録を編集		10/15 障害者就労支援施設にてベル ト製作の様子をビデオ撮影
11月	11/26 支援施設製作のベルトを使った家具の固定作業をビデオ撮影。 後日、施設にて映写会を開く予定 11/24 学童保育主催の「こども応援PJ①」に参加		
12月	「かぐてんぼう隊修了証」を作成		12/18 学童保育での受講者に、「かぐ てんぼう隊修了証」を授与
1月	次年度に向けての準備		1/6 学童保育主催の「こども応援 PJ ②」に参加
注1：家具等転倒防止対策・推進連絡会(偶数月の第二木曜日に開催) 注2：家具等転倒防止対策・技術研究会(奇数月の第一水曜日に開催)			

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 15】※3

タイトル	すすめ！かぐてんぼう隊養成講座
実施月日（曜日）	8月27日（月）
実施場所	半田市 放課後児童クラブ「こどものいえ」
担当者または講師	講師：児玉道子、中村廣一、吉田眞先 記録担当：水谷芳孝
所要時間または「コマ数×単位時間」	8時間「午前9時～午後6時」
プログラムのカテゴリ、形式	13. 体験学習
活動目的	10. その他（家具等転倒防止対策に関する知識を深める）
達成目標	“千里の道も一歩から” 一歩前進できました。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	講座と実習 <ul style="list-style-type: none"> 家具等転倒防止対策の必要性をクイズと映像で学ぶ 避難動線の確認 建物内の危険な箇所を点検 木造壁の下地を探す ガラスに飛散防止フィルムを貼る 建物内の家具を固定し、ガラスにフィルムを貼る（実践） 安否確認の方法
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> 人材（児玉、中村、吉田） 道具、材料等 下地探し用ボードパネル ガラス飛散防止フィルム、サッシのミニ版（オリジナル） L型金具、補強板、消耗品、家屋、家具のミニチュア
参加人数	16名
経費の総額・内訳概要	36,726円（資材・材料、謝金、賞状用紙）
成果と課題	<p>【成果】「こどものいえ」責任者のコメント 指導員室の食器棚の固定を手伝ったAちゃんは、何でも自分でやりたい子ですが、おうちでは思うようにさせてもらえず、口癖は「面倒くさい」でした。そんな彼女が、大人でも大変と思う作業をさせてもらい、そして「褒めてもらう」ことで素敵な笑顔を見せてくれたことが印象的でした。 「自分で考える」防災教育、とても興味深く、私どもの活動とコラボさせて頂ければ有難く存じます。</p> <p>【課題】 今回は主催者が企画運営をしましたが、次回からは子供たちが主に企画ができるように仕掛けてみたいと思います。</p>
成果物	子どもたちからの絵手紙、記録映像（子どもたちの言葉）

【実践プログラム番号： 15 】※3

タイトル	すすめ！かぐてんぼう隊養成講座
実施月日（曜日）	9月13日（木）
実施場所	名古屋市立小学校（6年生）
担当者または講師	講師：児玉道子、中村廣一、吉田眞先 記録担当：水谷芳孝
所要時間または「コマ数×単位時間」	90分「2コマ×45分」
プログラムのカテゴリ、形式	13. 体験学習
活動目的	10. その他（家具等転倒防止対策に関する知識を深める）
達成目標	“千里の道も一歩から”一歩前進できました。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	講座と実習 ・家具等転倒防止対策の必要性をクイズと映像で学ぶ ・避難動線の確認 ・木造壁の下地を探す ・ガラスに飛散防止フィルムを貼る ・shake out の紹介 ・安否確認の方法
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・人材（児玉、中村、吉田） ・道具、材料等 下地探し用ボードパネル ガラス飛散防止フィルム、サッシのミニ版（オリジナル） L型金具、補強板、消耗品、家屋、家具のミニチュア
参加人数	15名
経費の総額・内訳概要	6,598円（資材・材料費）
成果と課題	【成果】児童・関係者のコメント 児童B：「フィルム、もう一回やってもいいですか？」 児童c：「木できていて、壁も土だけど、固定することができる？」 担任教諭：「とても良かった。僕たちが勉強になりました。」 教育委員会：「授業でやるのは難しいと思った。」 校長： ・小学校の授業としては、問題がまだまだある。 ・イベントとしては、楽しいし興味はわくと思う。 ・授業計画書を5回くらい叩かないといけないと思う。 ・学校の授業でやるより、生涯学習センターの親子セミナーなどで、親と子で学んだ方が効果的だと思う。 【課題】 小学校の授業でチャレンジをさせてもらえたことは良かった。 頂いたコメントを今後につなげたいと思います。
成果物	関係者のコメント、記録映像

【実践プログラム番号： 15 】※3

タイトル	すすめ！かぐてんぼう隊養成講座
実施月日（曜日）	9月21日（金）、25日（火）、26日（水）
実施場所	名古屋大学教育学部附属中学・高等学校（2年生の3クラス）
担当者または講師	講師：児玉道子、中村廣一、吉田眞先 記録担当：水谷芳孝
所要時間または「コマ数×単位時間」	10：40～12：30「2コマ×50分」
プログラムのカテゴリ、形式	13. 体験学習
活動目的	10. その他（家具等転倒防止対策に関する知識を深める）
達成目標	“千里の道も一歩から”一歩前進できました。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	講座と実習 <ul style="list-style-type: none"> ・授業前の宿題（部屋の平面図と家具の配置図を描く） ・家具等転倒防止対策の必要性を映像と座学で学ぶ ・避難動線の確認 ・木造壁の下地を探す ・ガラスに飛散防止フィルムを貼る ・shake out の紹介 ・安否確認の方法
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・人材（児玉、中村、吉田） ・道具、材料等 下地探し用ボードパネル ガラス飛散防止フィルム、サッシのミニ版（オリジナル） L型金具、補強板、消耗品、建築士二次試験対策の方眼紙
参加人数	120名（40名×3クラス）
経費の総額・内訳概要	30,800円（印刷製本、謝金）
成果と課題	<p>【成果】副校長のコメント 次年度は、住居領域が中学2年生であるので、そこをお願いしたいです。中2も高2と同じく前期（4月～9月）の授業です。6月下旬から7月中旬を希望します。高校生は実習をすると「試験前は勘弁」とよく言いますが、気になさらないで下さい。「家庭科は実習する教科だ」と言っています。</p> <p>【課題】 1クラスが40人と人数が多いため、全員が体験することができませんでした。次回は、ボードパネルやサッシミニ版をそれぞれ4台（10人に1台）に増やします。 また、今回の高校生が中学生に対して、講師ができるようにしていきたいと考えています。</p>
成果物	高校生のアンケート

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 苦勞した点 <ul style="list-style-type: none"> ・「小中高の学校教育の現場」は、私たちにとって“未知の領域”でした。授業計画書（案）の作成に苦勞しました（図1）。 ■ 工夫した点 <ul style="list-style-type: none"> ・まず、協力してもらえそうな方々に声をかけました。 ・授業計画書（案）の作成において、小学校校長、名古屋市教育委員会、中・高校の副校長、義妹（横浜の小学校教諭）から助言を頂きました。 ・小学生に分かりやすく伝えるよう工夫しました。 ・小学生低学年、高学年の身長に合わせて、ボードパネルを製作しました。 ・今回のチャレンジは、学校教育での取り組みとして実施しました（図2）。 ・やるべきこと、伝えたいことは山ほどありますが、与えられた授業時間内で、防災の中の「家具の固定」にテーマを絞りました。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="443 757 890 1473">  </div> <div data-bbox="893 757 1385 1473">  </div> </div>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全国展開へ <p>この授業プログラムが全国で使えるかどうかは分かりませんが、地域の状況に応じて、手を加えて行く必要があると思います。画一化された授業はきっと面白くないと思います。今回のチャレンジを踏み台にして、全国で広がっていければ幸いです。</p>

図1 授業計画書（素案）





図2 ボードパネル

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	名古屋市教育委員会 名古屋市立小学校 名古屋大学教育学部附属中学・高等学校	協力
保護者・ PTAの組織	名古屋大学教育学部附属中学・高等学校 PTA 研修委員長	協力
地域組織	中村災害ボランティアネットワーク 防災ボラネット守山 名東区耐震化アドバイザー協会 あいち防災リーダー会	協力
国・地方公共団体・ 公共施設	名古屋市総務課総合調整室 名古屋市住宅都市局 名古屋市消防局 名古屋市住宅供給公社 神戸市すまいの安心支援センター	協力
企業・ 産業関連の組合等	増改築相談員瑞穂支部（福祉住研） 愛知県増改築相談員連絡協議会	協力
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	NPO 法人菜の花 NPO 法人藤森福社会	協力
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	愛知県建築士会 福祉住環境コーディネーター協会 職業（大工、サッシ屋、看板屋等）	協力



6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生のアンケート（自由記述欄）に、貴重な意見を書いてもらえました。 ・ 学童保育の小学生からは、逆に“教えてもらった”ことが収穫でした。大人とは違った視点の声が参考になりました。 ・ 多くの人たち（教職員・市役所・NPO・災害ボランティア・増改築相談員、大学教授など）を活動に巻き込むことによって、次の展開のきっかけとなりました（図3）。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">図3 協力して下さった皆さん</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の学校で出前授業を実施しましたが、事前の授業内容等の打合せや、意見交換が成功のカギを握っていることが分かりました。防災教育に“熱心な学校”と“丸投げ・お任せ・様子見の学校”とでは、成果が全く違います。 ・ 今後の課題としては、 <ol style="list-style-type: none"> ① 「防災」の各論である「家具等固定」に関する内容を、学校教育へどのように落とし込めるか、 ② どの科目で実施するのが有効かなどです。 ・ 今回の活動を通して、継続のためのキーワードが見えてきました。 <ol style="list-style-type: none"> ① “面の展開”（社会人等の地域での活動） ② “縦の継承”（社会人又は大学生が高校生へ、高校生が中学生へ） “面の展開”は、社会人や大学生を中心に今まで実施していましたが、学校教育では“縦の継承”がカギを握っていると思いました。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度、高校2年生を対象に出前授業を行いました。次年度は中学生を対象に依頼があり、実施する予定です。 ・ 学童保育は、責任者から継続的に実施するよう依頼があります（図4）。（次年度は、子どもたちによる防災に関する企画会議ができるように、提案をしてみたいと思います。） <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">図4 ミニミュンヘン「こども応援プロジェクト」の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校は、今回の経験を踏まえ、再チャレンジをする予定です。

7. 自由記述欄

■ コンセプト

防災対策としての位置づけ

- ・国内外で大規模な災害が起きている昨今、災害に備え大切な命を守るためには、被害を減らす取り組みを行う必要があります。
- ・本授業では、家具等の転倒防止の必要性を学び、その対策の具体的な方法を実習で体験します。
- ・自分の身は自分で守り(自助)、家族やご近所の住民を守る(共助)という「意識」と「行動できる」人材の育成を目指します。



図5 活動の様子

家具を壁に固定している様子 (左)
火災警報器を取付けている様子 (右)

自助から共助へ。家具の固定をきっかけに、地域住民のための見守り支援ができます。

■ 強力なメンバーと共に (家具等転倒防止対策・推進連絡会、技術研究会の参加者)



図6 強力な仲間

建築士、介護福祉士、ケアマネジャー、薬剤師、大工(増改築相談員)、水道屋、サッシ屋、元トヨタグループ社員、ケーブルテレビディレクター(元NHKカメラマン)、名古屋市職員(消防局、住宅都市局)、社会福祉協議会職員等(図6)。

報告・連絡・相談を行い、“みんなで活動する”意識が高まりました。

今回の活動ができたのは、この多彩なメンバーのお陰です。それぞれの立場、技術、ネットワークで実行することができました。

■ 出前授業(講座)の実施 「すすめ!かぐてんぼう隊養成講座」



講義
防災の具体策として、家具等固定の必要性を伝える

+



実習
下地がない所へ金具を固定したら?
フィルムを貼ったガラスはどう割れる?

図7 出前授業の様子(高校生)

授業計画書に沿って実施しました。学校で普及させるためのプログラムのたたき台ができたかと思います。導入は、当日の教科担当の先生から「阪神淡路大震災のボランティア体験談」が、生徒たちの気を引き締めました(図7)。



■ 今回の対象者と今後の展望

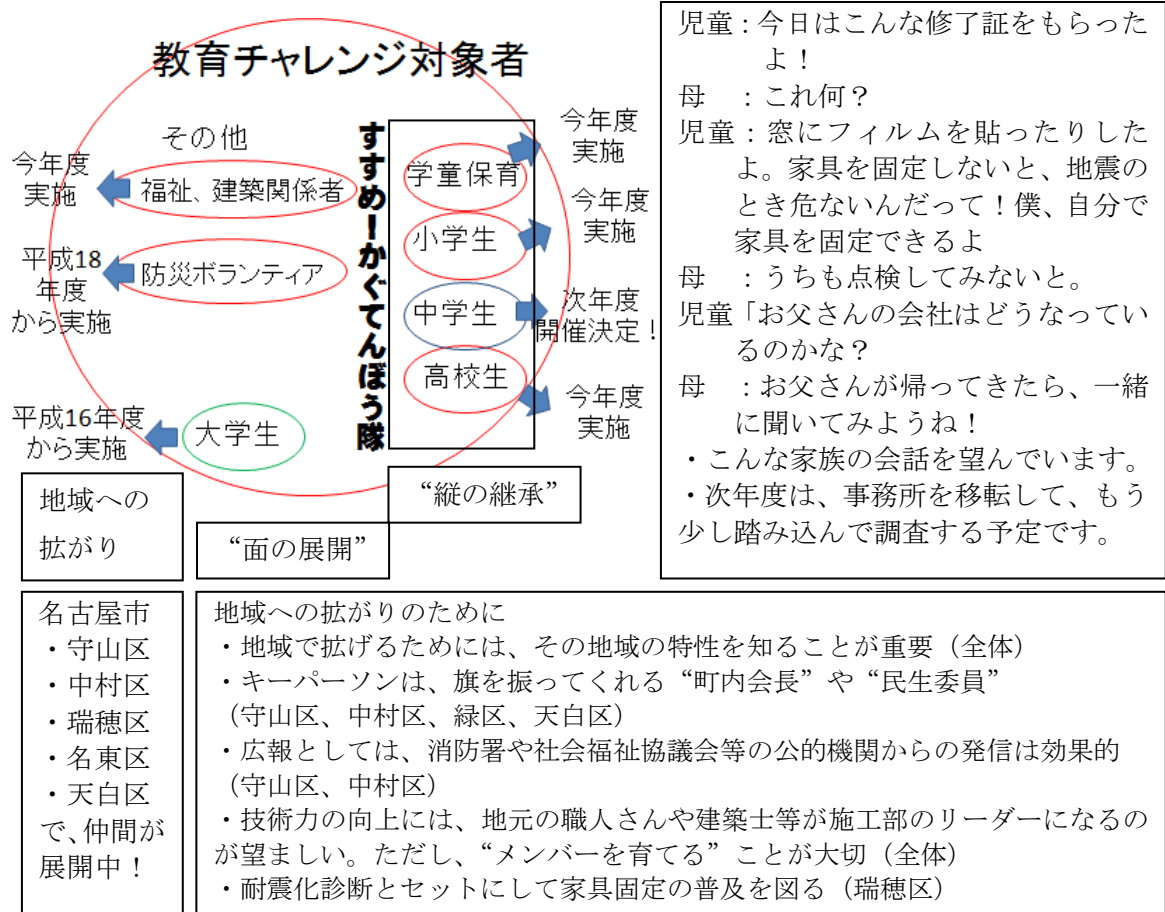


図8 今回の対象者と今後の展望

■ つながりの経緯

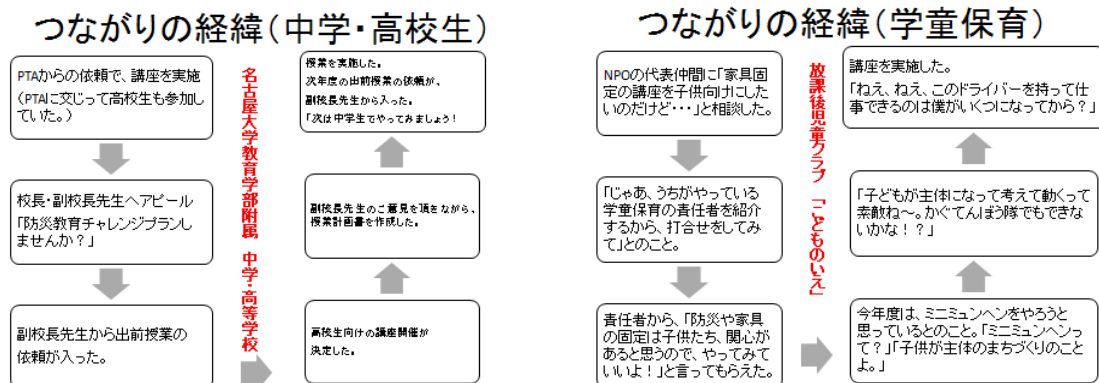


図9 つながりの経緯

子どもや教育現場で取り組みができたのは、防災意識の高い責任者とつながることができたからです。この出会いが幸いしました。

■ つづき

○学童保育の子どもたち



喜ばれることが喜びになる。喜ばれることを自分もしたい！

家具等の固定を通して、素敵な連鎖が生まれました。

図10 学童保育の子どもたちと、修了証及び教材

- ・8月27日に出前講座を実施した後、12月18日に「かぐてんぼう隊修了証」を持って訪問しました（図10）。
- ・こどもたちは私のことを忘れていましたが、「フィルムを貼った」「家具を固定した」と伝えると、「あー」と気づいてくれました。
- ・講座当日、講師の一人が仮設テントの骨で頭を怪我しました。そのことを覚えていて、「あのおじちゃん大丈夫だった？」と心配してくれました。
- ・修了証とともに、教材（記念品）として家屋、家具のミニチュアを贈呈しました。
- ・贈呈式の後にそれで遊んでいた男の子が、「あれ？冷蔵庫がない、あのときあったのに！」と家具の種類まで覚えていました。ばれていました（汗）
- ・小学校でも感じましたが、男女問わず“家や家具に関心が高い”ことに気づきました。
- ・子どもたちの関心を掴んだことは、確かに実感できました。
- ・次への展開のために、“わがやネット”は事務所を移転して次年度も関わっていく予定です。



図11 社会人・一般での展開の様子

- ・今回のチャレンジでは、出前授業の講師養成を兼ねて出前授業を行いました。
- ・家具等転倒防止対策・推進協議会、技術研究会での活動発表（中村区・吉田）に影響を受けた増改築相談員（大工、建築士）瑞穂支部の世話人が、耐震化と家具固定の推進を図るよう、建築関係の仲間に声をかけたようです（図左）。
- ・愛知県増改築相談員連絡協議会主催のシンポジウムで、「家具転倒防止で全住民の生活と命を守る。実例から、地域の取り組みを広めよう！」を開催しました（図中）。
- ・行政の制度として取り組んでいる先進事例の視察に、町内会長、増改築相談員、元マスコミ関係者と“青春18きっぷ”で神戸市へ行きました（図右）。
- ・家具等転倒防止対策・推進協議会、技術研究会では、今後、デザイン公募や推進活動をたたえる表彰などを設けたいと思っています。